



東京2020オリンピック聖火リレー

3月31日に聖火リレーが伊香保地内を走りました。群馬県2日目のスタート地として、伊香保石段街で出発式を行い、渋川市民吹奏楽団とへそ踊り、渋川雷太鼓が聖火の出発を祝いました。

この日、聖火ランナーを務めた、本市に縁のある3人を紹介します。

詳しくは、**本**政策創造課(☎②1880)へ。

だんだん広場
で出発式

唐澤 剣也さん

(小野上地区出身・伴走者吉井浩さん)

東京パラリンピック陸上5,000m代表(T11:全盲クラス)として、周囲に支えられながら、日々練習に励んでいます。金メダルを取り、地元之恩返しをしたいです。

トーチは重みがありました。沿道から拍手で応援を受け、楽しく走ることができました。聖火リレーを通じて、本番への意欲が高まりました。



渡邊 美鈴さん

(北橋町上箱田)



中学から柔道を始め、指導者や家族など、多くの支えを受けて全国大会出場を果たしました。挑戦する勇気と大切さを子どもたちに伝えたいと、走者に応募しました。

緊張しましたが、楽しく走りました。この経験を生かし、これからも挑戦を続けたいと思います。聖火をつなぎ、オリンピックに向けた明るい話題を届けたいです。

高橋 岳玖さん

(赤城町三原田)

祖父母に支えられて成長したので、聖火ランナーになり、オリンピックが大好きな祖父を励ましたいと思ったことが応募の理由の1つです。沿道の祖父へ、トーチを持つ姿を見せることができました。



小さい頃から日本舞踊を始め、伝統芸能の稽古に励んできました。オリンピックが、若い世代が伝統芸能に関心を持つきっかけになればと願います。